

平成 30年 1月 4日

2017 年度マクロ経済学試験範囲
試験日 平成 30年 1月 29日 (月) 4 時限 14:50-15:50

試験範囲

1. 生産・使用・資本金金融・海外勘定および家計の所得支出勘定を理解し、現実の国民経済計算の数値から諸項目間の関係を計算できるようにする。貯蓄の諸概念（家計貯蓄、国民貯蓄、経常収支の相互関係）、家計現実最終消費や政府現実最終消費、総固定資本形成と減価償却などの関係式を実際の数値できちんと理解しておく必要がある。

2. 「五者選択問題」であるが、択一ではなく複数回答可である。ただし、正答が 1 個だけのケースで複数回答した場合は減点になる。なお、no.2, no.5, no.6, no.11, no.13はMathematicaシミュレータ(レジユメ引用のWolfram Demonstration Project)で学習できる。

- no. 1. 国民経済計算
- no. 2. 「45度線」図 (Mathematicaシミュレータ参照)
- no. 3. 乗数過程 (等比級数、在庫調整モデルを含む)
- no. 4. 税率、輸出入を含むマクロ場均衡 (利子率一定のケース、税率の効果)
- no. 5. 閉鎖経済の財市場 (IS曲線とシフト、Mathematicaシミュレータ参照)
- no. 6. 閉鎖経済の貨幣市場 (LM曲線とシフト、Mathematicaシミュレータ参照)
- no. 7. 閉鎖経済のマクロ市場均衡 (財政・金融政策の効果、クラウドディングアウト、資産効果)
- no. 8. 総需要曲線の導出
- no. 9. 総供給曲線の導出
- no. 10. インフレ曲線
- no. 11. 節約のパラドックス (Mathematicaシミュレータ参照)
- no. 12. 貯蓄と預金
- no. 13. 成長モデル (貯蓄、預金、成長、Mathematicaシミュレータ参照)
- no.14. 国際貿易と為替
- no.15. マーシャル-ラーナー条件
- no.16. 利付債パーレートの定義
- no. 17. 為替平価説
- no. 18. 三国間為替裁定条件